No. 489
2018.9

客船よもやまばなし

〈連載266〉

「おれんじ８」を使ったバリシップ・ツアー

大阪府立大学大学院　海洋システム工学分野教授
池田　良穂

５月に、船舶工学を学ぶ学生40名余りを連れて今治市で開催された海事展「バリシップ」を見学するフェリーの旅を行った。海事展バリシップは２年ごとに開催されており、今年は240社余りが出展しており、毎回、着実に大きくなっている。バリシップでは、展示会だけでなく、市内で進水式、造船所、帆船日本丸などの見学もあり、海事都市今治に相応しい多彩な一大イベントとなっており、船舶工学を学ぶ学生にとっては貴重な体験ができるので、毎回、大阪から夜行フェリーで往復する研修ツアーを実施している。

利用する船は、本欄でも何回も紹介したことのある四国開発フェリーの「おれんじ８」である。大阪南港と愛媛の東予港を結ぶ夜行フェリーで、僚船の「おれんじ７」と交互に、配船されている。以前は、大阪発の「おれんじ８」による昼便もあって、昼間の瀬戸内海の航海を楽しめたが、モーダルシフトと逆行する高速道路や本四架橋の通行料の値下げ等の影響もあって、需要が急減して、今では夜行便だけの運航になっている。

四国開発フェリーは、オレンジフェリーという愛称で親しまれているが、グレードの高い内装と、美味しい食事が自慢の船である。夜10時すぎの出港であるが、８時から乗船ができ、その美味しい食事が楽しめるのが嬉しい。翌朝６時に到着後も、しばらく船内に滞在することができ、充実したバイキングスタイルの朝食がとれるのも行き届いた配慮だ。こうしたフェリーの実際の運航を学生に体験してもらうことも、このツアーの大きな目玉だ。大学で学ぶ船舶工学の座学だけでは理解できないビビットな感覚を大事にしてもらいたいとの筆者の願いでもある。

大阪南港に集まった学生たちと「おれんじ８」に乗船し、船上で夕食を兼ねた懇親会をさせてもらった。初めて乗船した学生からは、「フェリーってホテルみたいにきれいなのですね」、「フェリーの食事ってこんなに美味しいとは知らなかった」といった印象が聞けた。飲んで酔うにつれ、「こうした船を君たちは開発したり、設計した

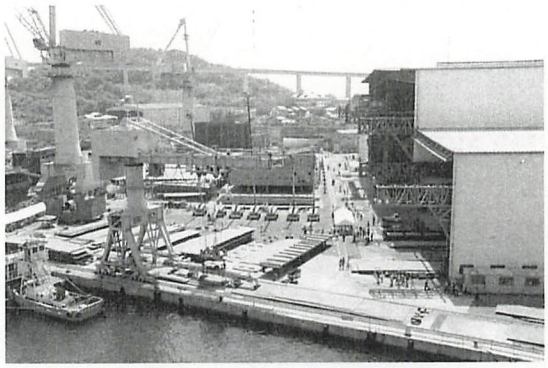
り、作ったりするのだよ」と説明し、「そのためには今大学で学んでいることが大切なのだよ」と、筆者の口からでる言葉がついつい説教風になってしまうのがなさけない。

しかし夜遅くまで学生たちと議論をし、デッキに出て満天の星を一緒に眺めての航海は充実していた。

翌朝、6時に東予港に入港。自慢の朝食を食べてから、チャーターしたバスで今治市内に向かった。1時間ほどのドライブで、来島海峡を望む展望台に寄った後、波方にある檜垣造船に到着。貨物船の進水式を見学させてもらった。初めての学生には、船首で酒瓶が割れ、薬玉がひらいて、巨大な船がスルスルと滑り降りていく光景はとても感動的なものであった。

檜垣造船で進水する直前の貨物船の前で記念撮影をする学生たち。

その後、今治造船の本社工場と、新来島どっくの大西工場の見学をさせていただいた。当日は、土曜日で、両工場共に一般市民に開放されていたが、各造船所で働いているOBが学生の案内を買って出てくれて、丁寧な説明をしてくれた。



バリシップで市民に一般公開されている今治造船本社工場

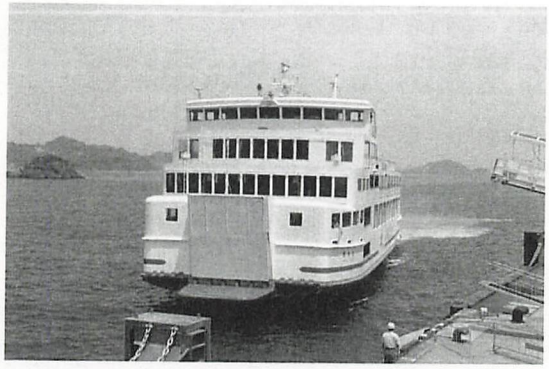
市内の会場で開催のバリシップは、土曜日とあって一般市民への開放日で、たくさんの人々で賑わっていた。子供たちも多く、将来、船に興味をもってくれればと願う。展示会では、何人かのOBが各社の出展ブースで案内役をしているのに遭遇し、同窓生たちの活躍ぶりも嬉しかった。

この後、近くのホテルで夕食会。今治造船、新来島どっくのOBも駆けつけてくれ、造船業という仕事について学生たちに熱く語ってくれた。

こうして今治の海事産業について見聞した学生たちはバスで東予港に戻り、再び「おれんじ8」に乗船して大阪へと向かった。

筆者は、学生と別れて、今治で1泊した後、松山に移動してフェリーで広島に向かった。翌日から広島で開催される造船の学会の講演会に出席するためである。松山と呉・広島間には、瀬戸内海汽船と石崎汽船が、高速旅客船とフェリーを運航している。時間もたっぷりあったので、より長く船旅の楽しめるフェリーを選んで乗船。瀬戸内海の島を見ての航海、音戸の瀬戸の通過、呉への寄港など見どころの多彩な楽しい航

海を楽しむことができた。



松山から広島まで乗船した石崎汽船のフェリー「翔洋丸」

広島での学会では、摩擦抵抗を40%余りも減らすことのできる船底空気循環槽の性能、波浪中抵抗増加を大幅に削減するためのCFD活用法などについての研究発表を行った。今まさに画期的な省エネ船の開発が急務となっており、知の殿堂ともいえる「学会」の重要性が増している。講演会への参加者も多くなり、その中で若い造船技術者の姿も多くなっているのは嬉しい。

今年11月には、大阪で、この日本船舶海洋工学会の秋季講演会が開催されることとなっている。ここで、どんな画期的な船舶技術が発表されるか、今からわくわくしている。もちろん、筆者の研究室からもいくつかの研究成果を発表する予定であり、筆者自身も同学会の副会長として講演会の運営にも全力をあげることにしている。ぜひ、読者の方々もこの講演会にご参集されてはいかがでしょうか。

新・中国税関実務マニュアル
（改訂増補版）

岩見辰彦　著

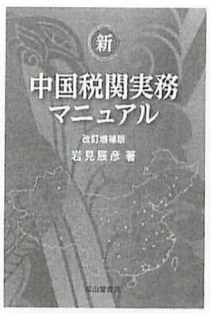
目覚ましい発展を遂げた中国は、日本企業にとって大きなビジネスチャンスであるとともに、切っても切れない関係のビジネスパートナーにまで成長してきた。とはいえ商習慣や制度はいまだ国際ルールと異なるのが常でリスクもまた大きいと言える。中国進出する日本企業が増加する一方で、中国から撤退する企業が多く存在するのも事実だ。

本書は、中国の通関制度や商習慣に詳しい著者が、実務に即した解説と豊富な書式サンプルで好評を博し、多くの中国進出企業輸出入担当者に愛読されてきた。

過渡期の中国の制度は時に流動的に方向転換が行われ、他方で規制が強化されるなど常に最新の動向をつかんでおく必要がある。

今回の改訂では、全面的に最新の内容にアップデートされた。特に、24時間ルール、化学品の規制、バイヤーズコンソリデーション、非居住者在庫管理（VMI）、加工貿易半製品の保税転売方法等について、新たに説明を加えている。書式サンプルなども必要に応じて入れ替えられた。

旧版読者はもちろん新規参入を目指す企業担当者にも大変参考になる図書だ。



A5判・292頁・定価3,675円（5%税込）〒390円

発行所　株式会社 成山堂書店

〒160-0012 東京都新宿区南元町4-51 成山堂ビル
電話 03-3357-5861 FAX 03-3357-5861
E-mail：publisher@seizando.co.jp